

New Collective Quantified Goal on Climate Finance

“NCQG”

気候資金の新規合同数値目標

気候変動ウェビナーシリーズ

COP29速報セミナー

2024年12月6日 15:00～17:00

発表資料

地球環境戦略研究機関

北九州アーバンセンター

研究員

大田 純子

途上国の資金需要は Billion から Trillionドルへ増

1,000億ドル目標が合意された2009年コペンハーゲンから15年あまり経ち、世界情勢は変化した
資金交渉は、気候変動問題の責任を問う場ともなりつつある

現在（2020～2025年）の資金目標
年間1,000億米ドルを先進国から途上国へ供与・動員
(約15兆円)

2025年以降のニーズ試算
年間1.3兆米ドル
(約200兆円)

10倍
+

“気候変動にかかる資金は
先進国の義務”
“億ではなく兆”
とCOP29会場で
訴える市民団体

(写真：UNFCCC. 2024.11.)



Global North = 先進国
Billion = 10億
Trillion = 兆

現行1,000億ドル目標はCOP29前に達成

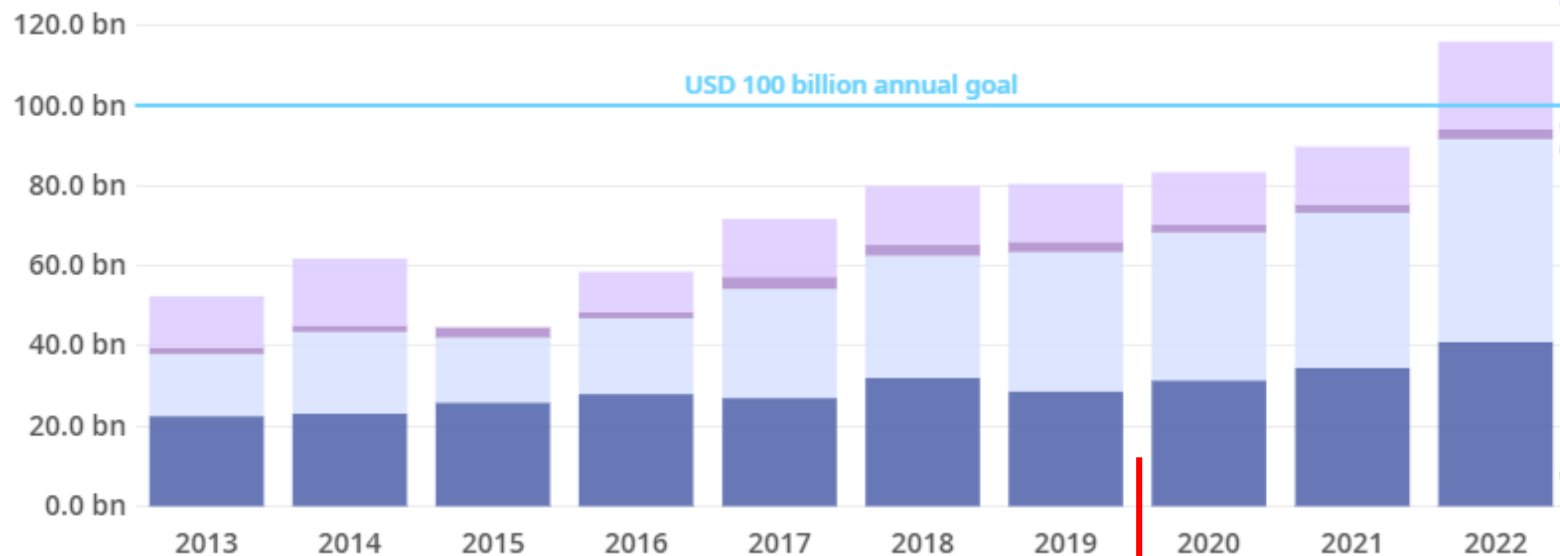
1,159億米ドル（2022年実績）



Climate finance for developing countries

Amounts provided and mobilised by developed countries, billion USD

■ Bilateral public ■ Multilateral public (attributed) ■ Export credits ■ Mobilised private (attributed)



The gap in the private finance series in 2015 is due to the implementation of enhanced measurement methodologies. As a result, private flows for 2016-22 cannot be directly compared with private flows for 2013-14.

Source: OECD (2024), *Climate Finance Provided and Mobilised by Developed Countries in 2013-2022*.

パリ協定 9条3項

民間を含む多様な資金源を動員する努力

（日本の事例）
公と民間資金を組み合わせた協調融資(JBIC)
海外取引のリスクを保証する貿易保険(NEXI)

パリ協定 9条1項

公的資金を供与する義務

（例）
国際開発金融機関（MDBs）への供出
二国間政府開発援助（ODA）の供出

→ 約束期間

新目標の「資金」の対象（2条：全世界、9条：途上国）

パリ協定の目的は**全世界**を対象

2条1項

(a)緩和（1.5°C・2°Cに抑える）

(b)適応能力・強靱性を高める

(c)これに**資金の流れ**を適合させる

途上国へ実施手段（MOI）を支援する

9条
資金



10条
技術

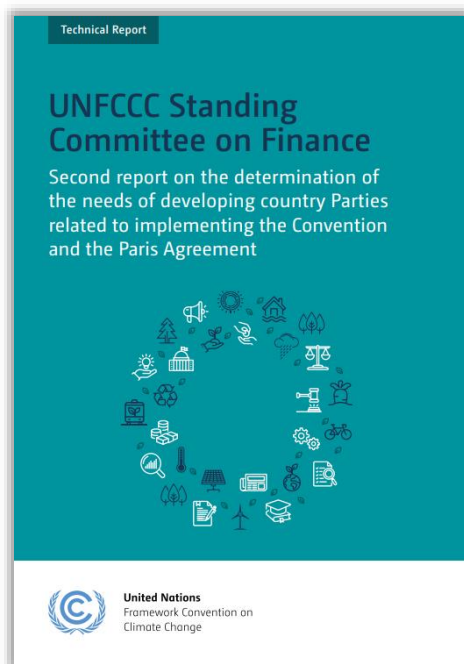


11条
能力開発



途上国の資金ニーズは年間 1.3 兆米ドル規模

途上国が**NDC**で示した資金ニーズは、**2030年までに計5～6.8兆ドル（年間4,550～5,840億ドル）**
他の分野の計画とあわせると、年間約1.3兆ドル規模が必要と主張されてきた



略語	報告書の種類	累計(USD)
Adcom	Adaptation Communication	• 1.77-2.4 trillion
BUR	Biennial Update Report	• 30-31.78 trillion
LEDS	Low-Emission Development Strategy	• 2.34-2.48 trillion
NAP	National Adaptation Plan	• 842-844 billion
NC	National Communication	• 28.32-28.67 trillion
NDC	Nationally Determined Contribution	• 5.036 to 6.876 trillion
TAP	Technology Action Plan	• 45 billion
TNA	Technology Needs Assessment	• 799-804 billion

途上国が気候変動枠組条約とパリ協定を実施するために必要な資金を特定する報告書（NDR：Needs Determination Report）を条約下に設置された資金の常設委員会（SCF）は4年毎に作成している。

途上国154か国から気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局へ提出された8種類の計画書・報告書に具体的に記述されている資金ニーズを基に試算された。

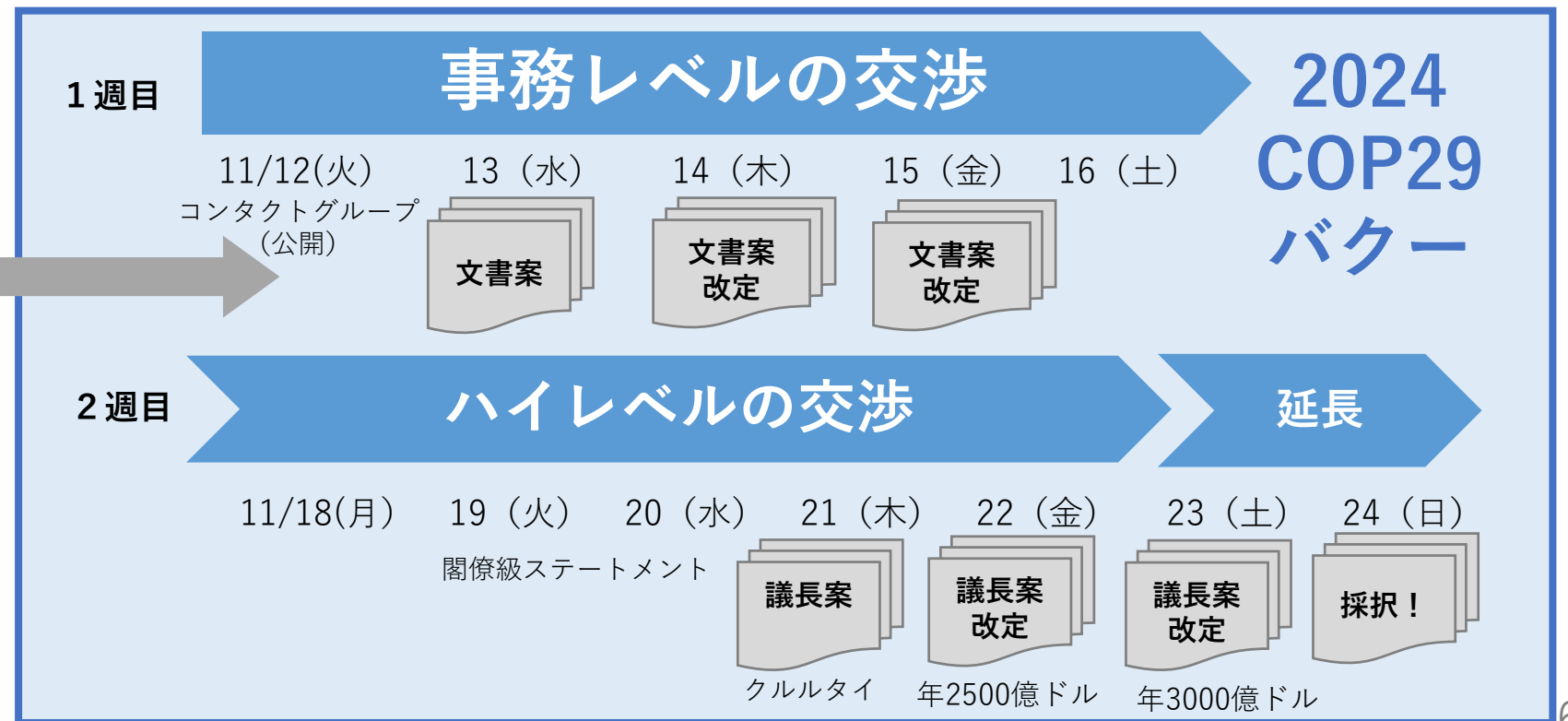
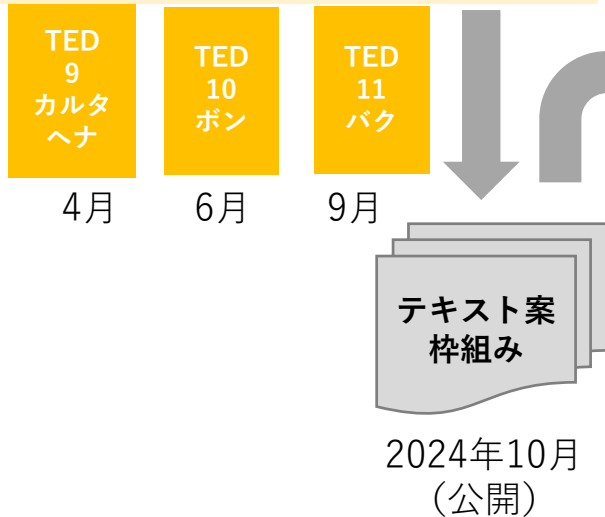
3年間のプロセスを経て、COP29は最終交渉

NCQG交渉スタート

技術的専門家対話 (TED)



2024
アドホックワークプログラム会議
決定文書案作成の権限



閣僚級ステートメント

(11/20)



日本政府・浅尾環境大臣 資金部分の発言のポイント

- ✓ 日本が掲げる2025年までの5年間で官民合わせて最大700億ドルの気候資金のコミットを着実に実施
- ✓ NCQGは、貢献する能力がある国、民間資金の動員が重要
- ✓ 条約発足から30年以上経過した世界の変化を踏まえ、NCQGは現実的であるべき

複数議題を一緒に議論した「クルルタイ」 (11/21)

Open-Ended Single-Setting “Qurutay”



【パナマ】 いつになったら、先進国から数値の提案があるのか



アゼルバイジャン
首席交渉官



【EU】 先進国がリードするが貢献できる全ての国が貢献すべき

【SIDS：サモア】 小島嶼途上国（SIDS）と後発途上国（LDC）のミニマム・アロケーションを設置



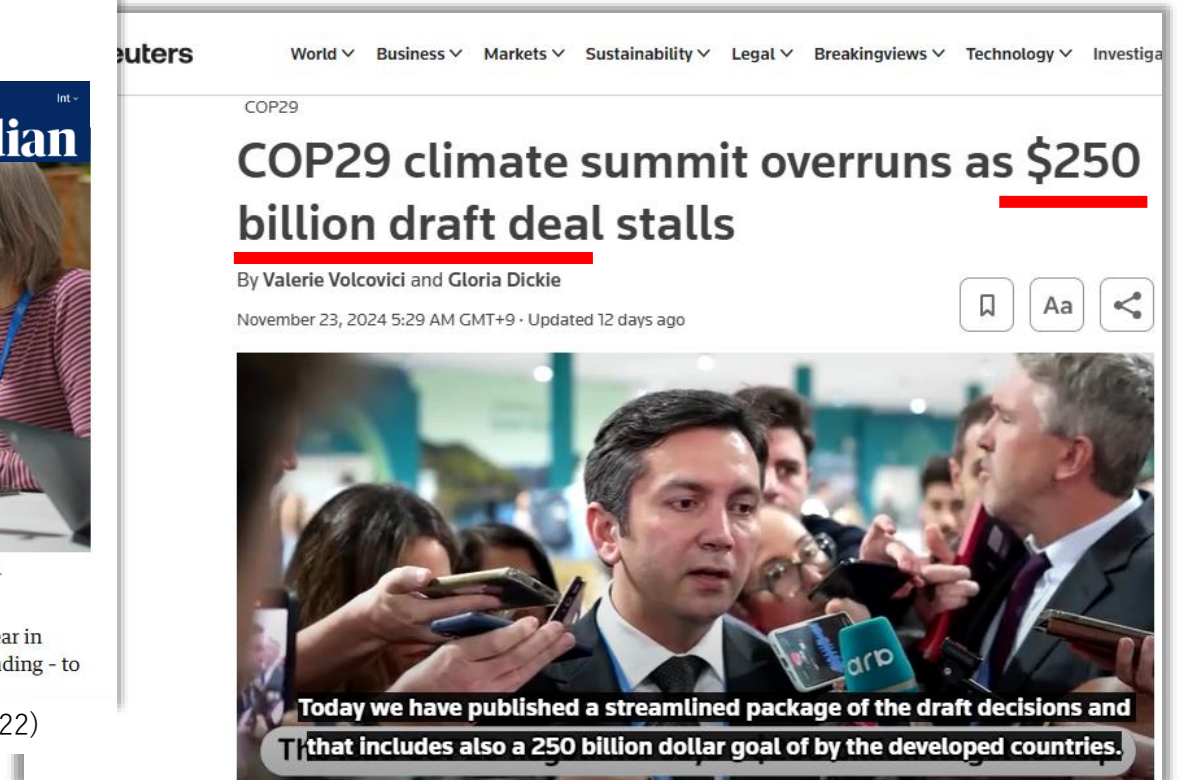
【日本】 数値設定の前に、対象となる資金源を決めるべき

最初の議長提案は「年2,500億ドル」

(2週目 11/21木)



(出典：UN News. <https://news.un.org/en/story/2024/11/1157346>)



小島嶼国などの途上国が会議室から退出する場面も

AOSIS

BBC

Home News Sport Business Innovation Culture Arts Travel Earth Video Live

'We were ready to leave climate summit' - negotiator tells BBC

26 November 2024 Share Save

Georgina Rannard
Climate reporter

Watch: Dozens of nations walk out of COP29 climate talks



Cedric Schuster
Alliance of Small Island States

Dozens of nations walked out of COP29 climate talks on Saturday in a moment of high drama

A key negotiator for the group of small island nations who walked out of the UN climate talks on Saturday, pushing them close to collapse, has told BBC News that the group was ready to leave the summit altogether.

Michai Robertson, finance negotiator for the Alliance of Small Island States (AOSIS) said that other countries were "laughing at them" for asking for larger sums of money to help them tackle climate change.

(出典：BBC. Web News. 2024. 11. 26.)

DW IN FOCUS German election 2025 Middle East crisis Russia's war in Ukraine Latest videos

NATURE AND ENVIRONMENT | AZERBAIJAN

COP29: Climate-vulnerable nations walk out of overtime talks

11/23/2024

Negotiators from small island and least-developed nations have staged a walkout at consultations in Azerbaijan, pushing the UN climate negotiations to the brink of collapse.

[f](#) [X](#) [v](#)



COP29 has gone into overtime as participants seek a financial deal to help nations most at risk from climate change

Image: Murad Sezer/REUTERS

(出典：Deutsche Welle. Web News. 2024.11.23.)

オブザーバーによるデモンストレーション



(写真: The Times)



(写真: Dairy Climate)



(写真: Foreign Policy)



(写真: Scoop News)



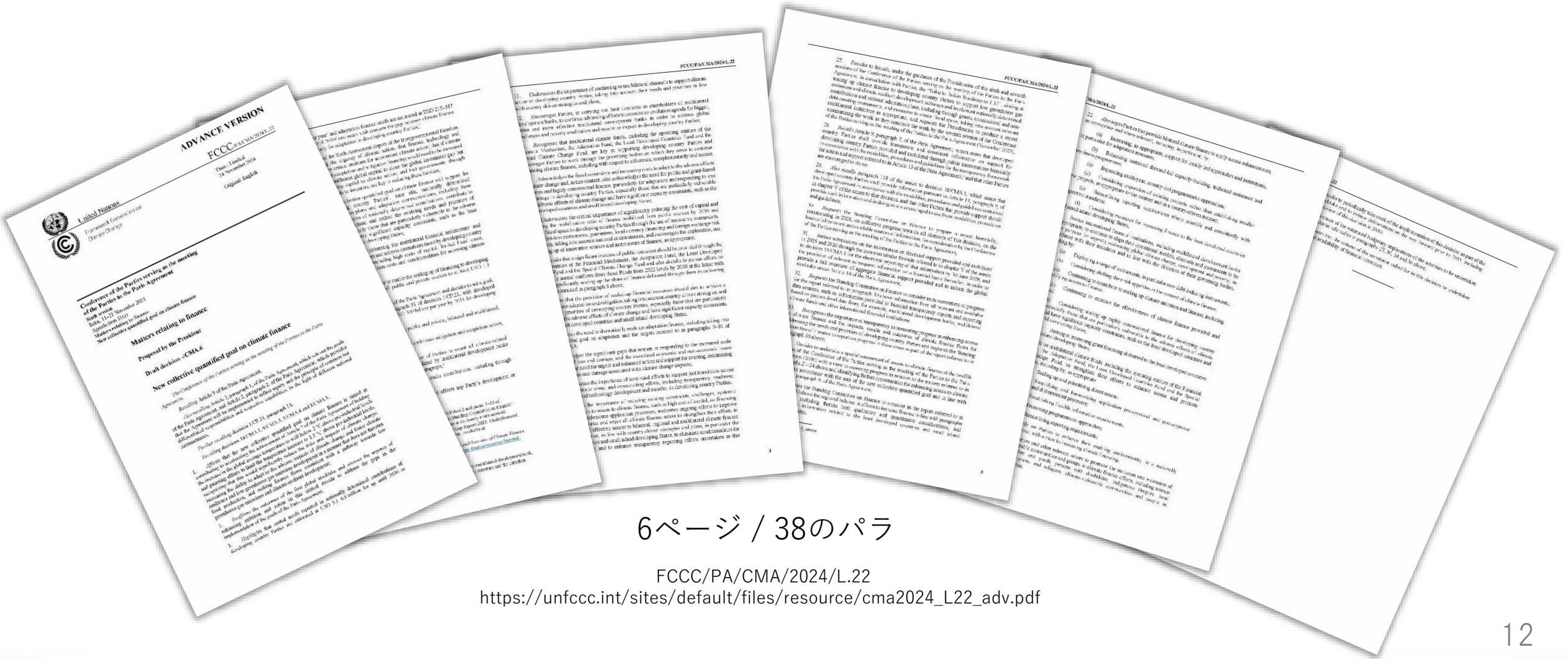
(写真: SBS News)

延長2日目（11/24 日曜）未明に奇跡の採択！

NCQGの採択にスタンディングオベーションで拍手喝采するプレナリー会場



気候資金の新規合同数値目標（NCQG）決定文書 ～バクー気候資金ゴール～



6ページ / 38のpara

FCCC/PA/CM.A/2024/L.22

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/cma2024_L22_adv.pdf

NCQGは2層構造

どちらの層も

- ・ 途上国向けの気候資金
- ・ 2035年までに目標値を達成

1,000億ドル目標になかったが、
NCQGで加えられた新しい要素

アウターレイヤー（純粋な民間資金・投資含む）

2条

全てのアクターにより年1.3兆米ドル

インナーレイヤー

9条

主に公的資金から年3,000億米ドル（約46兆円）

- ① 公的資金
 - ・ 二国間政府開発援助
 - ・ 国際開発金融機関（MDBs）
- ② 公的資金に動員された民間資金
（官民の協調融資、貿易保険など）

途上国からの資金
（南南協力など）

MDBsの全ての気候資金アウトフロー
（途上国からのMDBsへの拠出
MDBsによる資金運営含む）

目的を2条としたことで、今後、先進国における資金の流れや国内政策などの可能性も秘める

これまでの争点と結果

途上国

先進国

バクー決定

目的/スコープ
Aim/Scope

パリ協定 9 条（途上国支援）

パリ協定 2 条（全体目的）を
達成するための資金の流れ

- ・ パリ協定の目的2条1がNCQGの目的
- ・ (a)1.5/2°C目標、(b) 適応・強靱性、(c)資金の流れ
- ・ 受益者は脆弱国を考慮しつつ、全ての途上国

構造
Structure

シングル・レイヤー
（公的資金のみ）
分野別サブゴールも設置

マルチ・レイヤー
（民間投資、国内政策など）
数値付きサブゴールは避ける

- ・ 2層構造（インナーレイヤーとアウターレイヤー）
- ・ サブゴールの設置はなし（適応と緩和のバランス）

数値

Quantum

期間

Timeframe

ニーズレポートでの数値
2030年まで5～8兆ドル
年1兆ドル規模

5年

貢献者の拡大は
必至であり
セットで議論

10年+

2035年までに年間

- ① 1.3兆ドル
- ② 3,000億ドル

10年

2035年まで
（2030年にレビュー）

財源/貢献者

Sources/Contributor

先進国（これまで通りの）

貢献者の拡大
コントリビュータベース
（経済・排出量等による水準案も）

- ① 官民全てのアクター（純粋な民間投資含む）
- ② 先進国が率先、国際開発金融機（MDBs）
途上国（南南協力、MDBへの供出）もカウント

質/課題

Qualitative elements

債務問題、アクセス改善
キャピタルコストの軽減
適応、無償資金の不足等

目的に応じた多様な資金源
資金を活用できる環境・能力
資金のインパクト等

- ・ 本条約の資金メカニズム、適応基金、後発途上国基金、特別気候変動基金からの年間アウトフローを2022年比2023年までに3倍増、無償を大幅に増加
- ・ MDBs改革、申請の簡素化・調和、債務問題、障害・条件改善等、多くの詳細が盛り込まれた

報告/レビュー

Transparency/Review

パリ協定の既存の制度を活用
（ETF,BTR,GST,SCFなど）

パリ協定の既存の制度を活用
（ETF,BTR,GSTなど）

- ・ 既存の報告制度（BTR, ETF）活用
- ・ 各国は2028年6月までに2025～26年の情報を提供
- ・ SCFがNCQGの進捗報告書を2028年～隔年作成
- ・ 2030年に本決定をレビュー
- ・ GSTの一環として定期的にストックテイク

注目されたパラグラフ

(パラ 7)

全てのアクターに対し、全ての公的及び民間の資金源からの途上国の気候行動への資金を2035年までに年間1.3兆ドル以上に拡大するため共に行動する。

→パリ協定2条の文脈

(パラ 8)

2035年までに少なくとも年間3,000億ドルの途上国支援目標を決定

(a) 公的と民間、二国間と多国間、代替資金源を含の幅広い資金源から

(b) 野心的な緩和・適応策、および実施の透明性の文脈において

(c) MDBsからの全ての気候関連のアウトフローと動員された資金をカウントする締約国の自主的な意図を認識

→パリ協定9条（途上国支援、1000億目標の延長）

(パラ 9)

途上国に対し、南南協力を含めた自発的な貢献を奨励

【新しい要素】1000億ドル目標では、途上国からの資金貢献はカウント対象外であったが、NCQGではカウントできる

【新しい要素】これまでの1,000億ドル目標では、公的資金と組み合わさった民間資金しかカウントしていなかったが、NCQGでは純粋な民間資金・投資も対象に広がった！

7. *Calls on all actors to work together to enable the scaling up of financing to developing country Parties for climate action from all public and private sources to at least USD 1.3 trillion per year by 2035;*

8. *Reaffirms, in this context, Article 9 of the Paris Agreement and decides to set a goal, in extension of the goal referred to in paragraph 53 of decision 1/CP.21, with developed country Parties taking the lead, of at least USD 300 billion per year by 2035 for developing country Parties for climate action:*

(a) *From a wide variety of sources, public and private, bilateral and multilateral, including alternative sources;*

(b) *In the context of meaningful and ambitious mitigation and adaptation action, and transparency in implementation;*

(c) *Recognizing the voluntary intention of Parties to count all climate-related outflows from and climate-related finance mobilized by multilateral development banks towards achievement of the goal set forth in this paragraph;⁵*

9. *Encourages developing country Parties to make contributions, including through South-South cooperation, on a voluntary basis;*

【新しい要素】1,000億ドル目標でのMDBs部分は、先進国からの拠出のみをカウントしていたが、途上国からMDBsへの供出や、MDBs自ら運用する資金もNCQGではカウントの対象に広がった！

9 条 2 （途上国からの任意貢献） が決定に加わった

9 条 1 項

先進国が途上国へ資金を
供与する義務

Developed country Parties shall provide financial resources to assist developing countries Parties with respect to both mitigation and adaptation in continuation of their existing obligations under the Convention.

先進締約国は、条約に基づく既存の義務を継続するものとして、緩和及び適応に関し、開発途上締約国を支援するため、資金を供与する。

9 条 2 項

途上国による任意の
資金提供を推奨

Other Parties are encouraged to provide or continue to provide such support voluntarily.

他の締約国は、任意に提供すること又は引き続き提供することが推奨される。

9 条 3 項

先進国が途上国へ多様な
資金を動員する努力

As part of a global effort, developed country Parties should continue to take the lead in mobilizing climate finance from a wide variety of sources, instruments and channels, noting the significant role of public funds, though a variety of actions, including supporting country-driven strategies, and taking into account the needs and priorities of developing country Parties.

先進締約国は、世界全体の努力の一環として、開発途上締約国のニーズ及び優先事項を考慮しつつ、種々の行動を通じ、公的資金の重要な役割に留意して、多様な資金源及び経路、手段により気候に関する資金を動員することに引き続き率先して取り組むべきである。

NCQGの採択後、途上国からは不満の声も

延長2日目（11/24） 閉会プレナリー



インドはプロセスやNCQGの採択に反論した



ナイジェリアは3,000億ドルは少なすぎると訴えた

（出典：UNFCCC. 2024.11.24. Closing Joint Plenary. ウェブキャスト）

<https://unfccc.int/event/upon-completion-of-the-closing-plenary-of-cop-cmp-cma-part-2-joint-plenary-meeting-of-the-cop-cmp>

「新しい資金目標は人類にとっての保険」

UNFCCCサイモン・スティール事務局長、閉会プレナリー(11/24)にて

"This New Finance Goal is an Insurance Policy for Humanity": Simon Stiell at Close of COP29



(出典：UNFCCC HP)

所感

- ✓ 完璧を求めず、バクでの合意を目指した
- ✓ 新しい世界（新興国にも責任、民間巻き込む）への第一歩を踏んだ
- ✓ 一部の途上国が反論しつつの採択となり、今後の展開で回復が必要
- ✓ 数値は先進国寄り、質的要素は途上国の様々な課題・要望を盛り込んだ
（無償・適応増、債務問題、アクセス改善など）
- ✓ トラッキング方法論は今後の課題
（全てのアクターによる1.3兆ドルは新領域、OECD統計は途上国が懐疑的）
- ✓ 「1.3兆ドルへのバク・ベレン・ロードマップ」を通じての作業に期待

ご清聴ありがとうございました！



大田 純子

j-ota@iges.or.jp

<https://www.iges.or.jp/jp/about/staff/ota-junko>

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関

本研究は、環境省・（独）環境再生保全機構の環境研究総合推進費（JPMEERF20242M02）により実施した。